

平成 26 年 5 月 15 日

南の風 63

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

南部連盟では、今年の8月に南部ブロックのミニバス、中学、高校の指導者交流会を開催する予定です。詳しい内容は決まっていません。目的として考えているのは、小中高の指導者が互いの活動の現状について情報交換をすることや、日常の指導・支援の課題について話し合うことです。フリートーキングとして意見集約に拘らず、何か共通理解できることがあれば、今後の指導に役立てられると思います。第2回、3回と続けていければ、小中高の一貫指導に結び付くものと考えています。

さて、小中高の交流会の件でミニバスの指導者数人の方とお話した時に、話題となったことがあります。ドリブルについてです。すばり言うと、『ミニバス経験者はドリブルが多すぎる』という指摘が中学の指導者からあったということです。私も以前に何件か聞いたことがあります。また、ドリブルの功罪については、ミニバスに限らず各カテゴリーの中でも取り上げられることです。南の風の読者の方はどんなご意見をお持ちでしょうか？

ドリブルは、皆さんご承知のように**直接攻撃**であります。自分で得点できることが大きな利点です。それに比べるとパスは、間接攻撃となります。人を経由して得点することになります。

もちろんゲームでは、いろいろなシュチュエーションがありますからドリブル、パスの使い分けは当然必要です。上記の指摘である『ミニバス経験者はドリブルが多すぎる』の主旨は、「無駄なドリブルが多い」ということではないでしょうか。

確かに意味もなくドリブルを続けると、回りの味方はどう動いていいのか困惑します。オフェンスの流れは止まり、チームとしての攻めの機能は停止してしまいます。**ドリブルは目的を持って行うことが重要です。**

ここでドリブルの目的について考えて見ます。

- ①ドリブルペネトレート（ドライブ） 直接リングに向かえる。
- ②ボールを運ぶ（ボールダウン） フロントコートに運ぶ。
- ③パスのタイミングを計ったり、パスアングルを変えたりする パスを有効にするために。
- ④ディフェンスのプレッシャーを回避する 危険な場所から逃れる。
- ⑤スペースをつくる 味方のために攻撃の展開をし易くする。

以上のようなことが考えられます。

また、大切なことはドリブルの終わり方です。ドリブルの終わりがシュートであれば、それに越したことはありません。しかし目的もなくドリブルを止めてはいけません。パスする味方がいないのにドリブルを止めることは危険です。ドリブルを終えた瞬間には、次のプレーができること（シュートやパス）がベストです。ドリブルが終わった時に手元にボールを残さない習慣をつけることが大事になります。

最後に、ドリブルはボール運びやドライブだけに使われるのではなく、パスアングルの変化やスペースづくり、次の動きのタイミングを計るためにも使うということを選手に伝え、選手自身が目的を持ってドリブルができるようにしていきたいと思います。